

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	さんてらすなの花		
○保護者評価実施期間	R7年1月15日	～	R7年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	R7年1月15日	～	R7年3月19日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○訪問先施設評価実施期間	R7年1月15日	～	R7年3月19日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2007年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士と保育士が訪問支援員となっており、児童発達支援管理責任者と連携し訪問支援を行う事が出来る	保護者様のご希望や困り感に合わせて訪問する職員の調整を行っている。可能な限り他職種連携を行い、包括的に支援が行えるようにしている。	希望や困り感に寄り添い、細やかに評価・評価していく事が出来るように、ツールやプログラムの活用を推進していきたい。 R7年度は理学療法士を配置し、運動の練習も力を入れていく予定としている。
2	利用児の過ごす環境の中に職員が入り支援を行う直接支援型と観察から環境調整や支援の方法の情報共有を行っていく間接支援型の両方に対応している。	利用児・保護者・訪問先施設の願いや希望に合わせて、過ごしている中に職員が入り支援するパターンや、別室での個別支援、過ごしている環境を観察して支援の方針を協議していく様にしていける対応をしている。	外部研修や施設見学などを行い、個別の希望に柔軟に対応できるようにスキルアップを行う。施設としては訪問支援員のスキルアップを最大限サポートする。
3	訪問支援員は放課後等デイサービスとの兼務であり、3年以上の経験がある職員を配置している。	発達特性のある方との経験を積んできた職員が訪問支援にあたっている。	同法人こども園へ定期的に入り、未就学児童への理解を深めていく。また、作業療法士や理学療法士の訪問を希望されているご意見を頂いているため、R7年度からは新たに理学療法士を訪問支援員に配置する予定。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用実績が乏しい。ゆえに連絡調整の術も不十分であり、想定していた利用と比べ、少ない利用時間となる事が多かった。	訪問させていただき施設のご都合や文化の理解が不十分であったと考える。また、当事業所の勤務体制とのすり合わせが必要であった為、今後はより早期のタイミングで日程調整を行う必要がある。	現在のご利用中のお子様に通われている施設では、個別保育を行っており、その日は確実に通所されているとの事だった為、そのタイミングに合わせて一時間程度個別療育の時間を頂く事とする。
2	放課後等デイサービス事業との兼務者が訪問支援員となっている為、現状実働時間は午前中に限られてしまっている。	保育所等訪問支援としての事業が拡大していく中で、訪問支援員を主の業務とする職員を配置する事が出来れば解消できるが、現状は難しい。	利用される方が健やかに成長し、訪問支援に満足できるように、訪問支援員が保育所等訪問支援のイロハや必要なテクニックを研鑽し続けていく。
3			